

当健保の令和5年度の決算が、7月3日に開催された第111回組合会で可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

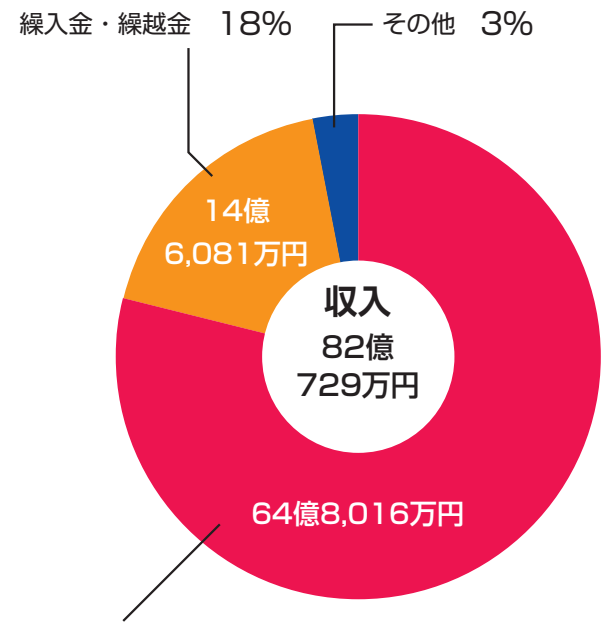
### 令和5年度 決算のポイント

#### ■ 一般勘定

##### ① 収入

科目	(単位：千円) 決算額	(単位：円) 被保険者1人当たり額
健康保険収入	6,480,163	641,283
調整保険料収入	106,276	10,517
繰越金	650,000	64,325
繰入金	810,807	80,238
国庫補助金収入	38,765	3,836
特定健康診査等事業収入	23,672	2,343
財政調整事業交付金	67,617	6,691
雑収入	29,986	2,967
合計	8,207,286	812,200
経常収入合計	6,547,944	647,990
経常収支	▲373,855	▲36,998

<b>基礎数値</b>	被保険者数	10,105人
平均標準報酬月額	健康保険料率	1000分の82



①健康保険収入 79%  
被保険者と会社から納めていただく保険料です。

#### ■ 介護勘定

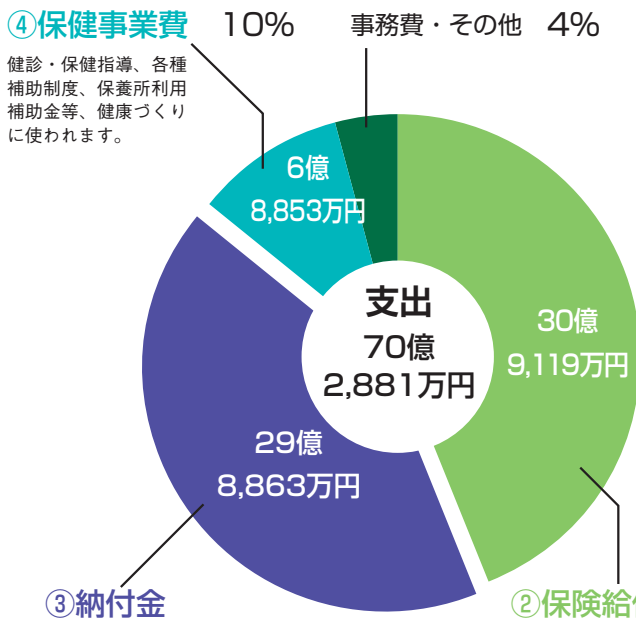
##### ① 収入

科目	(単位：千円) 決算額	(単位：円) 介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額
介護保険収入	977,338	163,380
合計	977,338	163,380

<b>基礎数値</b>	介護保険の対象となる被保険者数	8,060人
平均標準報酬月額	介護保険料率	1000分の18

##### ② 支出

科目	(単位：千円) 決算額	(単位：円) 被保険者1人当たり額
事務費	140,352	13,889
保険給付費	3,091,191	305,907
納付金	2,988,630	295,758
保健事業費	688,530	68,138
還付金	815	80
営繕費	1,054	104
財政調整事業拠出金	105,945	10,484
連合会費	2,035	201
積立金	10,000	990
雑支出	259	26
合計	7,028,811	695,578
経常支出合計	6,921,799	684,988



④保健事業費 10%  
健診・保健指導、各種補助制度、保養所利用補助金等、健康づくりに使われます。

③納付金 42%  
高齢者医療制度への拠出金となります。多くの健保組合が赤字となっている原因です。

②保険給付費 44%  
病気やけがをしたときの医療費・手当金として使われます。

##### ② 支出

科目	(単位：千円) 決算額	(単位：円) 介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額
介護納付金	847,556	141,684
介護保険料還付金	133	22
積立金	30,000	5,015
合計	877,689	146,722

# 決算のあらし

## 【一般勘定】

当健保の令和5年度決算は、経常収支で3億7,386万円の赤字となりました。令和5年度は、被保険者数や標準報酬月額等の大幅な上昇により保険料収入が増加し、納付金が一時的に減少したこともあって、経常赤字額は縮小しました。しかし、保険給付費の増加などにより赤字の解消には至りませんでした。

### ● 収入

健保組合の主な収入は、みなさんと会社から収めていただく健康保険料です。令和5年度の①健康保険収入は、保険料算出の基礎となる被保険者数や給与・賞与の増加により、前年度比6億3,106万円増の64億8,016万円となりました。

収入不足を補てんするため、前年度からの繰越金6億5,000万円、別途積立金からの繰入金8億1,081万円などを計上しています。

### ● 支出

健保組合の主な支出は②保険給付費と③納付金です。

まず、みなさんとご家族が病気やけがをしたときの医療費や手当金などにあてられる②保険給付費は、前年度比2億480万円増の30億9,119万円となりました。保険給付費は新型コロナの影響で一時的に減少した令和2年度以降、増加傾向が続いています。一方、高齢者の医療費を支えるために国に支払う③納付金（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金・退職者給付拠出金）は29億8,863万円で、前年度比3億9,590万円減と大きく減少しました。しかし、この減少は一時的なものであり、今後も高齢者人口の増加に伴い、納付金が増加することは確実視されています。引き続き動向を注視しながら、中長期的に安定した運営を続けるための対策を検討してまいります。

各種健診・保健指導等の健康づくり事業の費用としては、④保健事業費6億8,853万円の支出となりました。



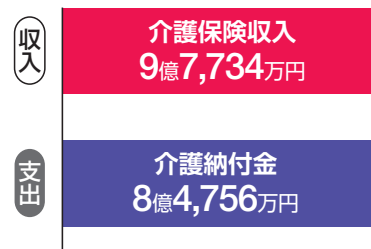
健康保険収入増や納付金減があったものの、赤字の解消には至らず、収入の不足分は繰越金と繰入金で補てんしました。

## 【介護勘定】

次に通過勘定科目となる介護勘定です。健保組合は、国の代わりに会社と40歳～64歳の被保険者から介護保険料をお預かりし、介護納付金として国に納めています。介護保険料は毎年度、国から割り当てられる介護納付金を賄うのに必要な保険料率を設定し、納めていただいています。

令和5年度の介護納付金は8億4,756万円、介護保険料は9億7,734万円となりました。

高齢者人口の増加による介護サービス利用者の増加に伴い、介護納付金は今後も増加していくことが見込まれることから、随時介護保険料率の見直しが必要となる見通しです。



## 決算のポイント

- 令和5年度は経常収支で3億7,386万円の赤字決算に。
- 被保険者数や給与・賞与の上昇により、保険料収入が前年度比6億3,106万円増加。
- 保険給付費は前年度比2億480万円増加。一方、納付金は一時的に大きく減少し、同3億9,590万円減。
- 引き続き健康管理・疾病予防事業に重点を置いて保健事業を実施。
- 介護勘定は、高齢者人口の増加による介護納付金の上昇は避けられず、随時保険料率を見直しして対応する必要がある。

## 健保組合を取り巻く環境と今後の見通し

健康保険組合連合会（健保連）が公表した「令和5年度健康保険組合予算早期集計」によると、全国の健保組合は非常に厳しい財政状況に直面していることが明らかになりました。健保組合全体の約9割が赤字、経常収支は6,578億円の赤字となり、前年度の5,621億円の赤字からさらに悪化する見通しです。

財政悪化の主な要因には保険給付費と納付金の急激な増加が挙げられています。全国の健保組合の平均保険料率は前年度比

0.05ポイント増の9.32%、実質保険料率は0.17ポイント増の10.27%となり、10%以上の保険料率を設定した組合は全体の約25%にあたる333組合に上ります。

今後も高齢化に伴い納付金の増加が続くと予想されており、さらに厳しい財政状況が見込まれています。国民皆保険制度を維持するためには、すべての世代が能力に応じて公平に負担し支え合う全世代型社会保障制度の早期実現が必要です。